

本社の経営戦略

- ハイスピードシャツのネットワークを世界へ
- 水道遠方監視装置の拡販
- 地場企業との協力

独自商品の第二弾

小松電機産業(本社鳥根県八雲村、社長小松昭夫氏、資本金九百五十万円)が開発した上下水道遠方監視装置がこのほど江江市の簡易水道に採用された。水漏れ、処理場の水量や水質、ポンプなどの運転状態のデータを各施設に設置した検出器から電

話回線を使って中央監視盤に伝送、届ながらにして水道施設の運転状況を把握できるシステムだ。大規模施設向けの大手メーカー製品に比べ、割安なのが特徴で、今後全国自治体向けに販売していく。自動開閉式のピニールシャツター(四番)

小松電機産業



小松 昭夫社長

生産能力を倍増

台湾足掛かりに世界へ

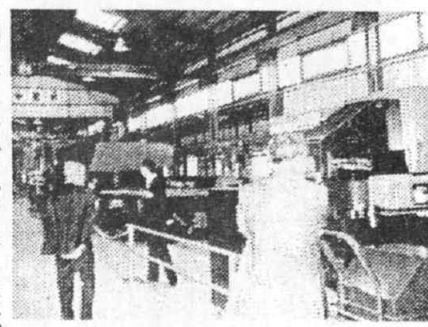
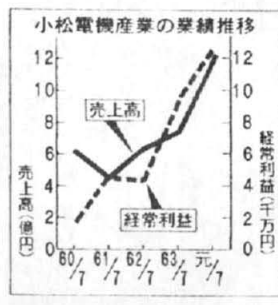
△の受注生産を始めた。これが遠方監視装置の開発につながっている。

大手と組み全国展開

大きく飛躍するきっかけになったのは六十年に開発したハイスピード自動開閉シャツター。

シャッターといえば、巻き取り式の鉄製が常識だったが、超音波センサーを組み込んだピニール製シャツターはヒット商品となった。工場や倉庫などの出入り口に設置、車が近づくと超音波センサーが働き、シャツターが瞬時に開閉する装置で、運転者はいちいち車から降りずに済むのが受けた。

企業がシャツター業界に認知された。と小松社長は振り返る。今年六月には鳥根県下で初の



今年6月には鳥根県下で初のFMS無人工場を建設した

本格発売に当たり、大手の文フレキシブル生産システム(FP)化シャツターと技術・販路面で提携したことが、全国展開の足掛かりとなった。この提携は鉄製の一般シャツターとの併設した。これに続き、九月には台湾に総代理店を設置、既に九ヶ所の輸出実績がある。台湾は気温が高いため、工場の冷気を外部

パイオ・電算機も的

小松社長の願いは自社の発展もさることながら「鳥根県の技術水準の引き上げと製造業の発展」。製造業は雇用吸収力が最も大きく、製造業が発展するこ

に逃がさず出入りできるハイスピードシャツターの需要増が期待でき、徐々にKD(現地組み立て)生産を進める方針。小松社長は「台湾を足掛かりに世界中にネットワークを広げていく」と夢を描く。

平成元年七月期の売上高は十億千八百万円と初の十億円台に乗せたが、二年七月期は「二十億円が目標」(小松社長)。

今や、鳥根県のベンチャー企業今や、鳥根県のベンチャー企業今や、鳥根県のベンチャー企業

とで第三次産業も発展するといふ持論だ。このため、地場企業と協同組合アソシエーションを設立、融合化組合に発展させて、ハイスピードシャツターの技術をファミリーなど家庭

の旗手的な存在に成長したが、経営基盤も固まったところで小松社長は「今後後株式市場を一つの目標にして頑張りたい」と夢を膨らませている。